

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人 天仁会		
事業所名	グループホーム うえの家(2階・3階)		
所在地	沖縄県那覇市字上之屋408-4		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年1月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に開き、地域に根ざす、より良いケアを地域と共に」を合い言葉に、地域密着型サービス理念の実現に向けて、あたたかいサービス提供を心がけています。うえの家は「大家族」をイメージした優しさを持って、入居者の皆様個々のニーズに沿ったサービスの提供に努めています。なじみの方が多い安心出来る環境の中で、自宅にいるようなゆったりとした時間と温もりあるくつろぎの空間で利用者同士、職員とのより良い関係作りを大切にしています。さらに「地域交流室」を開放し地域の方の利用、七夕会など地域の方を招待し共に楽しむ機会を設けたり、防災訓練参加の呼びかけ等、地域へ参加の活動を広げている最中です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4階建ての2、3階にあり、県営団地や民家、母体法人施設等が隣接する場所にある。管理者と職員は、毎月のミーティングで地域密着型サービスの意義を深め、現状に合った理念を作り変えている。目標の一つに個人の尊厳を守り支援することがうたわれ、利用者の思いをそのまま受け止めることを大切に支援している。これまでの生活習慣を尊重し、早朝なら入浴が可能という方に早朝に入浴できるよう対応するなど、利用者の気持ちに添えるような環境づくりの工夫に取り組んでいる。職員の特技を活かした役割分担、母体の医療法人全体での職員研修や資格修得のための支援、受験講座設置、人事考課等、職員の意欲向上に繋げている。又、顧客満足度アンケート調査が行われ、利用者や家族の要望を取り入れ生活支援に活かしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年2月23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寛ぎと穏やかな生活を支援しています。	管理者と職員は、日頃のケアを振り返り、現状に合った理念につくりかえている。理念には3つの目標が掲げられ、毎月のミーティングでは、理念の唱和を行い、具体的なケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺のゴミ拾い、事業所開催の行事への地域への案内、ご家族によるレク(琉舞)指導などを行っている。	朝のゴミ捨ての時、利用者と一緒に散歩に出かけ、地域の方と挨拶をかわすようになっている。毎年、複合施設全体で七夕祭りが催され、地域の方を招いての交流がある。又、毎週、琉舞サークルや三味線のボランティアが来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として、認知症ケアシンポジウム開催の案内等のポスター掲示(入口)で地域に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年7月より開催(奇数月)、運営推進会議議事録は事業所内に掲示している。	今年度は運営推進会議を年6回開催している。会議には行政や地域代表が参加し事業所の活動状況、事故等が報告され、意見交換等も行われているが、利用者や家族の参加が確認できない。	運営推進会議は、利用者や家族の状況を知っていただくことも大切なので、利用者が参加出来る工夫の取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議やグループホーム連絡会に職員を派遣していただき情報交換している。	行政からはグループホーム連絡協議会や研修会の案内、介護の法改正の制度説明会等がある。その他、更新時の窓口訪問や運営推進会議等で日頃より市町村との連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを活用して「行わないケア」を実践し、常に職員の意識統一を図っている。	身体拘束をしない方針を掲げ、サービス支援に努めている。目標「個人の尊厳を守り」を大切に、転倒リスクの高い方にはベッドから床マットに変え、常時家に帰りたいの訴えには、一緒に外出や散歩するなど拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に向けての研修会を通して職員の意識向上に努めている。		

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通して、学ぶ機会を持ち必要性のある入居者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居契約時に全文説明を丁寧に実施し、十分な理解を得られるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談時の情報収集や契約時の要望の聞き取り、サービス担当者会議、面会時や事業所の行事参加などの際にニーズを把握し運営に反映するように努めている。	利用者は日頃の生活の場面で、家族からは面会時や受診同行の際に意見や要望を聞くようにしている。昨年度から行っている満足度調査では、家族からの要望で、「歩行訓練をさせて欲しい」「ドライブに行かせて欲しい」などがあり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期、臨時的なミーティングにおいて課題検討、自由討議などの意見を反映するよう努めている。	職員からは、ミーティングや申し送りの際に意見や要望を聞いている。また、人事考課制度があり、年に2回管理者と面談の機会を設けている。職員から、業務内容や業務分担の意見があり、検討し見直している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の就業規則にて職場環境、条件について共有。年二回の人事考課、評価のフィードバック、職員個々の目標成果、努力目標を評価し意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や、勤務調整などを行い参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体での年間研修会、勉強会の実施で交流する機会を作っている。外部研修にも参加出来るよう努めている。見学、訪問なども随時受け付けている。		

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から、ご本人の要望や必要とするケアの把握に努め、安心できる環境作り、サービス提供を心掛けている。特に入居時は、観察や対話を重視し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、ご家族の要望、必要とするケアの把握に努めている。特に入居時は、連絡を密にし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時から、ご本人の要望や必要とするケアの把握に努め、サービス提供を心掛けている。特に入居時は、観察や対話を重視し関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は画一的なケアにならないように、個々入居者のニーズに合わせたサービスの提供、入居者本位を重視し、暮らしを共にするもの同士として信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内は面会や付き添いを自由とし、家族対話を重視し、お互いの役割を共有しながら信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人など、なじみの関係者の交流の活用、飼い猫に会うための自宅への同行の支援などを実施、職員もなじみの関係作りに努めている。	関係性の把握は利用者、家族から情報を得ている。以前一緒に施設のいた友人の訪問があり、一緒に過ごしている。清明祭、お盆や正月は、家族対応で外出や外泊する利用者もいる。飼い猫に合うため自宅への同行支援も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が対話しやすい環境作りや職員を交えての交流、余暇活動に努めている。入居者同士の関わり合いに役割分担を取り入れ、交流に活用している。		

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(入院、退居)でも、必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症実践者研修や認知症リーダー研修での学びからパーソンドケア実施に努め、常に一人の人として入居者を尊重し、その人の立場となって理解し、支援やケアを行う事に努めている。	利用者の思いの把握は、日頃の会話の中で把握し、「さしみが食べたい」「コーラが飲みたい」など意向を確認し、一緒に買い物に行くなど支援を行っている。意思表示が困難な利用者に対しては家族からの情報収集や本人の表情や仕草等から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントを重視し、入居者やご家族の要望や必要とするケアの把握に努め、関係する職員と協働しより良いプラン作成につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を目標の一つとし、アセスメントや事業所での日常生活観察、在宅での生活状況を聞き取りながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスは基より、日頃の状態把握、モニタリングにより日頃から課題確認を行い、ご本人、ご家族を交えての意見交換により利用者本位のケアプラン作成につとめている。	担当者会議は利用者や家族が参加、意見を反映し介護計画を作成している。モニタリングと介護計画の見直しは、利用者の状態変化時や更新時に行っている。会議に参加出来ない職員は申し送りの際に情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や状態(バイタルチェック)については、常にケア記録として残し、職員間で情報共有し、実践事項はケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送りや確認事項等、その日に必要な支援を検討している。		

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所以外のサービスや資源について、利用者本位に考え、主治医の専門外での状態変化などは状態に応じた医療機関の相談、紹介などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本位の主治医連携に努め、相談、連絡、報告などを行っている。また主治医の専門外での状態変化などは状態に応じた医療機関の相談、紹介など行っている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で、受診は家族が対応し、情報提供や結果等も口頭で行っている。協力医療機関受診時には管理者が同行しているが、協力医は利用者の様子を伺いに訪ねてくる事がある。訪問歯科、訪問診療も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を重視。法人内看護師、他職種間との連携・協力を努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者入院時には情報提供、情報交換に努め、入院先の訪問や主治医との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方針や内容については十分説明を行っている、終末期に向けたケースで事業所でできる支援を行っている	医療的行為の必要がない場合は看取りを行う方針である。事業所の指針も明確にし、家族には契約時に説明して、状態変化時に応じて話し合いを行うとしている。以前に看取りを行った事例もあり職員も方針を共有し理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	那覇市消防本部、法人高齢者福祉部門協力のもとに年数回の救急救命講習会の実施、防災訓練年2回の実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備など、体制作りはしているが、地域との協力体制、訓練などは努力を要する	同一建物の事業所合同で、夜間想定避難訓練を1回実施している。地域住民にチラシを配り、協力をお願いしたが参加は得られなかった。機器や備品等の点検を行い備蓄は法人で準備している。	昼夜を想定した年2回の訓練と地域の協力体制に期待したい。

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関するマニュアルを実施するとともに、尊厳あるケアについて一人一人の人格を尊重したケアを心掛けている。	個人に関する記録や資料等は鍵付きの棚で管理している。利用者を尊重した支援を心がけ、日々の生活の中で安心できる場所や残存能力を活かす環境作り、入浴や食事の時間等、一人ひとりに合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケースカンファレンスにおいて、入居者ご本人の参加をもとめて、要望の聞き取りに努めている。また日頃より入居者本人のニーズ把握に努め、日常生活の意志決定も尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしに重点を置き、やりたい事をやりたいペースでできるよう、また本人が安らぐ居場所を配慮し「やさしい自由時間」をテーマに支援を努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尊厳ある生活が保てるよう、日常生活の支援に配慮するとともに、整容や身だしなみには細心の注意を図っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士と連携し、小規模事業所ならではの対応でご利用者一人一人の嗜好や分量に配慮しながら支援している。またご利用者の役割(生き甲斐作り)を持って片付けや準備を手伝ってもらっている。	副食は法人より配食で届き、ご飯は事業所で炊いている。利用者は準備や片付け、おやつ作り、月1回の誕生日会には職員と一緒に食事に関する一連の作業に参加している。利用者の状態にあった対応や要望等も支援している。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の摂取量をチェックし、栄養や水分確保には細心の注意を行っている。また法人内管理栄養士との連携により個々の栄養バランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、清潔保持に努めている。ご本人の状態に応じた支援(口腔ケア)を行っている。		

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳ある生活への支援に努め、入居者一人一人の状態に応じ、おむつ減らしや自立排泄支援に向けて取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンをチェック表を用いて把握している。日中は事前の声掛け支援により、トイレでの排泄を行っている。声掛けは羞恥心に配慮しさりげなく行うよう注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に十分注意し、管理栄養士や看護師、介護士連携のもと、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、入居者一人一人の希望を聞き取り、極力要望に応じた対応に努めている。	入浴時間は、生活習慣の継続で早朝(5:00)浴槽に入る方や、午後ゆっくり入る方等、希望に沿った支援を行っている。皮膚疾患がある方には、毎日入浴を促し清潔保持することで症状が改善した事例がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の状態や体調などを考慮し、休息、午睡など、安眠への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状態については、担当制を導入し情報を共有、支援している。また日頃より入居者の体調変化の観察について細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生き甲斐作りとして、役割を持って活動することに重点をおき支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、近隣の散歩を中心に入居者一人一人の希望に沿えるよう努めているとともに、季節行事やミニドライブを通じて豊かな生活支援に努めている。	2日に1度のゴミ出しの際、利用者も同行し近隣の散歩をしたり、コンビニへ行きたいとの要望で外出することもある。戸外が困難な方は施設の屋上での外気浴で気分転換を図っている。週に1度、定期的に家族と外出や外泊をする利用者もいる。	

沖縄県(グループホームうえの家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の能力に応じ対応しているが、希望がある方はご家族了解の元、ご本人の希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の対人関係、コミュニケーションを重視し、入居者の希望、要望に添って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間作り、入居者本位の空間作りに努めている。また緑の配置や季節感作り、季節行事の飾りなど、細心の注意をはらい、四季折々の生活作りに努めている。	玄関スペースにはアロマ加湿器を置き、ベンチを設置している。食堂兼多目的フロアのベランダ側は全面ガラス張りで開放されている。利用者はソファに座りテレビを観たり音楽を聴く等して寛いでいる。トイレの出入り口各所にはケア用品をレースの袋に入れて飾る等工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人一人の安らぐ居場所作りに配慮し、共同生活を楽しめる場所、一人でゆっくり過ごせる場所、屋上庭園など多数の空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、入居者及びご家族が自由に部屋作りを行えるように配慮するとともに、選択肢がある場合は自由に居場所を選択していただいている。また入居者の状態に応じた空間作りのアドバイスに努めている。	家族の宿泊用のベッドやテレビ、馴染みの物等が持ち込まれ、壁には家族写真や本人の作品(書字等)や好みの帽子が飾られている。確認行動の多い方の居室入口に大文字で部屋番号を記し確認できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の有する能力に応じた自立生活支援の為、多数の工夫を行っており、又安全な生活の配慮に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人 天仁会		
事業所名	グループホーム うえの家(2階・3階)		
所在地	沖縄県那覇市字上之屋408-4		
自己評価作成日	平成27年12月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に開き、地域に根ざす、より良いケアを地域と共に」を合い言葉に、地域密着型サービス理念の実現に向けて、あたたかいサービス提供を心がけています。うえの家は「大家族」をイメージした優しさを持って、入居者の皆様個々のニーズに沿ったサービスの提供に努めています。なじみの方が多い安心出来る環境の中で、自宅にいるようなゆったりとした時間と温もりあるくつろぎの空間で利用者同士、職員とのより良い関係作りを大切にしています。さらに「地域交流室」を開放し地域の方の利用、七夕会など地域の方を招待し共に楽しむ機会を設けたり、防災訓練参加の呼びかけ等、地域へ参加の活動を広げている最中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年2月23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寛ぎと穏やかな生活を支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺のゴミ拾い、事業所開催の行事への地域への案内、ご家族によるレク(琉舞)指導などを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として、認知症ケアシンポジウム開催の案内等のポスター掲示(入口)で地域に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年7月より開催(奇数月)、運営推進会議議事録は事業所内に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議やグループホーム連絡会に職員を派遣していただき情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを活用して「行わないケア」を実践し、常に職員の意識統一を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に向けての研修会を通して職員の意識向上に努めている。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通して、学ぶ機会を持ち必要性のある入居者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居契約時に全文説明を丁寧に実施し、十分な理解を得られるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談時の情報収集や契約時の要望の聞き取り、サービス担当者会議、面会時や事業所の行事参加などの際にニーズを把握し運営に反映するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期、臨時的なミーティングにおいて課題検討、自由討議などの意見を反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の就業規則にて職場環境、条件について共有。年二回の人事考課、評価のフィードバック、職員個々の目標成果、努力目標を評価し意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や、勤務調整などを行い参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体での年間研修会、勉強会の実施で交流する機会を作っている。外部研修にも参加出来るよう努めている。見学、訪問なども随時受け付けている。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から、ご本人の要望や必要とするケアの把握に努め、安心できる環境作り、サービス提供を心掛けている。特に入居時は、観察や対話を重視し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、ご家族の要望、必要とするケアの把握に努めている。特に入居時は、連絡を密にし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時から、ご本人の要望や必要とするケアの把握に努め、サービス提供を心掛けている。特に入居時は、観察や対話を重視し関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は画一的なケアにならないように、個々入居者のニーズに合わせたサービスの提供、入居者本位を重視し、暮らしを共にするもの同士として信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内は面会や付き添いを自由とし、家族対話を重視し、お互いの役割を共有しながら信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人など、なじみの関係者の交流の活用、飼い猫に会うための自宅への同行の支援などを実施、職員もなじみの関係作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が対話しやすい環境作りや職員を交えての交流、余暇活動に努めている。入居者同士の関わり合いに役割分担を取り入れ、交流に活用している。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(入院、退居)でも、必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症実践者研修や認知症リーダー研修での学びからパーソンドケア実施に努め、常に一人の人として入居者を尊重し、その人の立場となって理解し、支援やケアを行う事に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントを重視し、入居者やご家族の要望や必要とするケアの把握に努め、関係する職員と協働しより良いプラン作成につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を目標の一つとし、アセスメントや事業所での日常生活観察、在宅での生活状況を聞き取りながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスは基より、日頃の状態把握、モニタリングにより日頃から課題確認を行い、ご本人、ご家族を交えての意見交換により利用者本位のケアプラン作成につとめている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や状態(バイタルチェック)については、常にケア記録として残し、職員間で情報共有し、実践事項はケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送りや確認事項等、その日に必要な支援を検討している。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所以外のサービスや資源について、利用者本位に考え、主治医の専門外での状態変化などは状態に応じた医療機関の相談、紹介などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本位の主治医連携に努め、相談、連絡、報告などを行っている。また主治医の専門外での状態変化などは状態に応じた医療機関の相談、紹介など行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を重視。法人内看護師、他職種間との連携・協力を努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者入院時には情報提供、情報交換に努め、入院先の訪問や主治医との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方針や内容については十分説明を行っている、終末期に向けたケースで事業所のできる支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	那覇市消防本部、法人高齢者福祉部門協力のもとに年数回の救急救命講習会の実施、防災訓練年2回の実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備など、体制作りはしているが、地域との協力体制、訓練などは努力を要する		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関するマニュアルを実施するとともに、尊厳あるケアについて一人一人の人格を尊重したケアを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケースカンファレンスにおいて、入居者ご本人の参加をもとめて、要望の聞き取りに努めている。また日頃より入居者本人のニーズ把握に努め、日常生活の意志決定も尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしに重点を置き、やりたい事をやりたいペースでできるよう、また本人が安らぐ居場所を配慮し「やさしい自由時間」をテーマに支援を努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尊厳ある生活が保てるよう、日常生活の支援に配慮するとともに、整容や身だしなみには細心の注意を図っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士と連携し、小規模事業所ならではの対応で利用者一人一人の嗜好や分量に配慮しながら支援している。またご利用者の役割(生き甲斐作り)を持って片付けや準備を手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の摂取量をチェックし、栄養や水分確保には細心の注意を行っている。また法人内管理栄養士との連携により個々の栄養バランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、清潔保持に努めている。ご本人の状態に応じた支援(口腔ケア)を行っている。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳ある生活への支援に努め、入居者一人一人の状態に応じ、おむつ減らしや自立排泄支援に向けて取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に十分注意し、管理栄養士や看護師、介護士連携のもと、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、入居者一人一人の希望を聞き取り、極力要望に応じた対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の状態や体調などを考慮し、休息、午睡など、安眠への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状態については、担当制を導入し情報を共有、支援している。また日頃より入居者の体調変化の観察について細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生き甲斐作りとして、役割を持って活動することに重点をおき支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、近隣の散歩を中心に入居者一人一人の希望に沿えるよう努めているとともに、季節行事やミニドライブを通じて豊かな生活支援に努めている。		

沖縄県(グループホームうえの家 3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の能力に応じ対応しているが、希望がある方はご家族了解の元、ご本人の希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の対人関係、コミュニケーションを重視し、入居者の希望、要望に添って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間作り、入居者本位の空間作りに努めている。また緑の配置や季節感作り、季節行事の飾りなど、細心の注意をはらい、四季折々の生活作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人一人の安らぐ居場所作りに配慮し、共同生活を楽しめる場所、一人でゆっくり過ごせる場所、屋上庭園など多数の空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、入居者及びご家族が自由に部屋作りを行えるように配慮するとともに、選択肢がある場合は自由に居場所を選択していただいている。また入居者の状態に応じた空間作りのアドバイスに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の有する能力に応じた自立生活支援の為、多数の工夫を行っており、又安全な生活の配慮に努めている。		